行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(タイ)

広域アジアものづくり技術・人材高度化研究センター　運営委員会　委員　菅哲男
接合科学研究所　客員教授

2019 年度のタイ CIS(カップリングインターンシップ)が、8 月 11 日—8 月 24 日の期間にタイ(バンコク)で開催されました。大阪大学の外国語学部 2 名、工学研究科 2 名、カセサート大の人文科学部 2 名と工学部 2 名の計 8 名の学生が参加しました。接合科学研究所の橋本特任講師が、全工程を引率しました。

現地では 2 日間(8 月 12 日—13 日)の事前研修をカセサート大で行い、日本企業の理念やコミュニケ—ションの研修、現地実習企業の紹介、溶接基礎知識の教育、CIS 実習テーマの検討などを行いました。

8 月 14 日から 5 日間(休日を除く)の企業実習に臨みました。ナワナコンにある OTC ダイヘン・アジア(OTCDA)社で、会社の説明(組織、業務内容)、安全と品質の講習などを受けると共に、工場見学(溶接トーチの製造)、工場実習(自動旋盤、射出成形、ロボット操作、溶接)や OTCDA の幹部やスタッフとのインタビューを行いました。8 月 19 日には、ラヨーンで OTCDA の FA センターや客先(Thai Summit PK, 自動車部品メーカー)の見学もしました。また、実習テーマの「コミュニケーションの課題と対策」について、学生は 2 チームに分かれて連日協議を重ねて、一生懸命に取り組みました。

最終日の 8 月 23 日に、カセサート大で学生はテーマの検討結果について発表しました(写真)。最終報告会には、OTCDA の中津社長、辻井副社長、カセサート大の Peerayuth 工学部長、Nontawat 工学部長アドバイザー、大阪大学の菅客員教授、橋本特任講師ら計 20 名が参加しました。学生の提案に関して活発な議論が行われましたが、中津社長からは「提案は社内の活動に取り入れたい」とのコメントがありました。大学と企業から「コミュニケーション」に関する貴重なアドバイスも多く出されました。

学生は、「現地企業のものづくり現場」を体験すると共に、実習テーマを通して異文化コミュニケーション力を向上させており、大変意味のある活動でした。